

東ティモール支援　映画上映イベントを開催した BluePeco のメンバー

ともしび
共生委員会ニュース

2016 年度　4 号

2016 年 12 月 1 日版

共生委員会ニュース「ともしび」　　スクールモットー「地の塩、世の光」

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる 2 年生の修学旅行だけでなく、高等部の 3 年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

第 5 回 FOR 会（大学生と共に被災地支援との関わりについて考える会）

2016 年 10 月 25 日（火）放課後 16：00～17：30 中会議室にて FOR 会が行われました。

FOR（エフ・オー・アール）会は、未来《Future》のための意見《Opinion》をもう一度考える《Reconsider》会という意味で、被災地岩手県立宮古市でボランティア活動を続ける大学生が企画し、被災地支援やボランティアについて高等部生と一緒に考える機会を作ってくれています。2014 年度の 1 月から始まり、今回が 5 回目となりました。

まず、夏休み中に高等部宮古訪問プログラムに参加した高等部生、大学生団体「Message for 3.11」、それぞれの活動を報告し合いました。夏に台風 10 号の被害を受けた宮古で大学生たちが泥かき等のボランティアに携わったことも伝えられました。

その後、２つのテーマについて参加者全員で意見交換を行いました。1 つ目は「東日本大震災、熊本地震から考える首都直下地震への防災」でした。「東京では、時間が経って東日本大震災の報道もされなくなり、忘れてしまっている」。「その時だけ『大変だ』と言って終わってしまい『教訓』として残されていない」。「熊本地震、鳥取地震の際にも、いつまでもパーティションさえない避難生活を強いられるなど、過去の経験が活かされていない」。「東京でもバラバラの防災計画がまとめられておらず、またその情報が一般には伝わっていない」などの意見が出されました。



２つ目のテーマ「震災から 5 年が経った宮古市に私達はこれからどのように関わっていくべきか」では、震災による目に見える傷跡はなくなってきたが、若者が外へ流出していっていることなど、必ずしも被災地でなくても生じる問題が重要になってきたことなどが指摘されました。大学生達は、コミュニティーをどう保っていくかといった問題に向き合って、地元のニーズに合った活動をやっていくつもりだとのことでした。

参加した高等部生は 5 名と少なかったですが、これまでの活動を振り返り、宮古に関わってきた大学生や訪問プログラムに参加した高等部生から後輩へとつなげられたものがありました。

先日、福島県沖で東日本大震災の大きな余震があり、首都圏の大震災も心配されます。今後も被災地関連の事柄に目を向けていくとともに、自分たちの防災対策も再確認していってください。

65 期　平和・共生論文

高等部では、三年間の平和・共生学習を LogBook にまとめています。そして、一人ひとりが関心を持ったテーマについて、二年生から三年生にかけての時期を用いて論文の執筆を行います。

その論文のうち、各 HR から一名ずつ代表論文が選出され、論文集にまとめられることになりました。一、二年生も三年生の代表論文を参考にしながら、各々の目線で豊かな学びを重ねていってほしいと思います。

301 T. M.　高齢者と生きる　―私たちもいつか迎えるその時のため―

302 F. Y.　発達障害児の教育環境 ―「壁」を作っているのはだれか―

303 K. M.　難民問題に向き合う

304 I. F.　性の多様化に見る共生の未来　―セクシュアルマイノリティとどのように向き合うか―

305 T. M.　太平洋戦争を防ぐことは出来たのか？

306 Y. T.　反戦歌が戦争抑止と世界平和に訴えかけているもの

307 S. R.　戦争・原爆の事実を後世に伝えていくにはどうしたらいいか

308 K. M.　人間と戦争の相性　―デーヴ・グロスマンの著書を踏まえて―

309 F. N.　生物の機能を利用した持続可能な社会

310 N. R.　ピケティの『21 世紀の資本』を読んで　―日本の貧困問題について考える―

「未来を描く」　LogBook はじめに より



未来とは、向こうから勝手に訪れるものではなく、想像力、そして創造力によって生み出していくものです。他者を受け入れ、共に生きるということは、決して易しいことではなく、そこには膨大で、複雑で、投げ出したくなるような問題ばかりがあります。その山積みの問題を前に、自分の力では何も解決できない、という一人の力の弱さを思い知りますが、その「できない」ことを知ることが、「まず何ならできるか」を考え始めるための準備になります。

過去から現在まで、私たちが歩んできた道のりの先には、どのような未来が広がっているでしょうか。私たちが描く未来のジグソーパズルには、あとどのような形のピースが必要でしょうか。新しい知識との出会い、新しい人との出会いによってパズルを組み立てていくために、まず礼拝や聖書の時間などを通じて自分自身を見つめなおす機会を持ちましょう。そして、それを設計図とし、過去から現在へつながる道の先に、未来への一歩目となる「研究」を踏み出します。

BLUE PECO

東ティモール支援　フェアトレード プロジェクト報告

ラファエック（テキスト）1000 冊の目標達成！

ご協力ありがとうございました。

寄付金総額　**￥207,628　（ラファエック 1,110 冊相当）**

昨年のコーヒーフェスをはじめ、夏の東ティモール訪問、文化祭、グローバルウィーク、映画上映イベントなどを通じて BLUE PECO が取り組んできたフェアトレードプロジェクト。東ティモールの貧困の背景に教育水準の低さや、東ティモールの言葉であるテトゥン語のテキストがないことなどに注目した BLUE PECO は、テトゥン語の学習教材『ラファエック』を 1000 冊購入し、東ティモールの農村へ送るプロジェクトを行いました。その結果、多くの方の応援やご声援を受け、みごと 207,628 円のファンドレイズ目標を達成しました。



Di'ak !※

※テトゥン語で
「素晴らしい！」「美味しい！」
などの意味

国際協力 NGO　ケア・インターナショナル　ジャパン様の事務所で贈呈式を行いました。



BLUE PECO では、引き続き東ティモールの農村について研究し、支援活動を継続していきます。

グローバルウィークに来校されたシリア難民のジャマールさんへインタビュー

6 月のグローバルウィーク I では、ジャマールさんとのトークセッションを行いました。ジャマールさんは、日本に暮らす数少ないシリア難民の一人です。沢山の生徒がセッションに参加し、とても良い時を持つことができました。ジャマールさんは、とてもフレンドリーで面白い男性です。5 か月が経った今、ジャマールさんにもっとお話を伺いました！

Vocabulary

convey - 伝える

complicated - 困難な

refugee - 難民

heartbreaking - 断腸の思いをさせる

fundraising - 募金

accomplish - 成し遂げる

overcome - 克服する

scholarship - 奨学金

Hi Jamal, how's it going?

Everything is fine thanks.

Thank you for speaking at our school. We all learned a lot, could feel a lot, and it was a great experience for us all. How was it for you?

Actually, it was a pleasure and really a great experience talking to the students about Syria and trying to convey the right image about what is happening in Syria, because you know it's a very complicated case and I think many people have the wrong image about Syria and about what is really happening there. So, it was really important for me to make everything clear as much as possible to the students. The students were so clever and I was very happy they asked so many questions!

Your event was very popular, so many students who wanted to attend couldn't. In short, what do you want those students to know?



I just want them to know that Syria was a very nice and beautiful country to live in, and what's been happening now in Syria for the last 5 years is a really heartbreaking thing. If they have any questions about Syria, they can contact me at any time.

Many of our students would like to do something to help Syrian refugees and refugees in general. Do you have any recommendations about how they can help?

I really appreciate that they want to help. Actually because there are not so many refugees in Japan, especially Syrian refugees, I don't know about organizations that help refugees here in Japan. However, sometimes my friends and I do fundraising events as a group called "White heart for Syria". Please find us on facebook! Or you can search for some NPOs which help Syrian or refugees around the world.

Is there any other message you would like to give to our students?

I just want everybody to know that losing your home, losing everything you have accomplished in your life, and losing everything you love is really a difficult thing to handle. I can't explain it. So, just try to keep your country safe and please just be grateful that you still have your normal life. Just keep going no matter what problem you are facing. The key to overcoming everything is to be patient, strong, believe in yourself and never give up, no matter what. That's what I did to survive and stand up again. And I really hope all of you will always be safe and never have to face in your life what I have faced.

Quick Qs!

1. Favorite Japanese food

Ramen and soba.

2. Hobbies

Soccer. I'm addicted to it.

3. Favorite football teams

Real Madrid and Man United

4. Favorite thing in Tokyo/Japan

Round 1 stadium

You said in your talk that you were hoping to go to university. How is your plan going?

I have applied for a scholarship offered by the UNHCR and I've passed many tests so far successfully. The last step is an interview at the university in December to get the final decision. I hope I can make it!

What are your hopes for the future?

First of all, I hope that the killing and bombing in Syria will stop as soon as possible and Syria to be safe again. I also hope Japan will always be safe because it's my second home now, and I hope all of you achieve your goals and be successful men and women in the future.

Thank you, Jamal!

Thank you!